

NJ 素流協 News

平成23年10月31日 第82号

平成23年10月31日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

主要木材の需給見通し

(平成23年第4四半期及び平成24年第1四半期)

林野庁は、平成23年9月28日に

平成23年度第2回木材需給会議を

開催し、「主要木材の需給見通し(平

成23年第4四半期10月～12月及び

平成24年第1四半期1月～3月)

を公表しましたので、その内容を

紹介します。

1 経済情勢等

実質GDP(国内総生産)成長率は、21年度はマイナスであったが、22年度2・3%(実績)、23年度0・2%、24年度2・3%(以上見通し)などと緩やかなプラス成長が見込まれている。

新設住宅着工戸数の動向は、3月には対前年同月比で2・4%減であったが、4月以降連続してプラスとなり、特に7月は住宅エコポイントによる駆け込み需要などにより21・2%増となった。23年度の新設住宅着工戸数見通しは84・8万戸、震災の復興需要が本格化する24年度は89・9万戸と見込ま

れている。

2 主要木材需給動向

(1) 国産材丸太

製材用、合板用ともに、第4四半期は復興需要と住宅着工の回復傾向を見込んで前期を上回る見通し。平成24年第1四半期(1～3月)は、例年需要の落ちる時期に当たり前期より減少するが、前年同期を上回る見込み。(図)

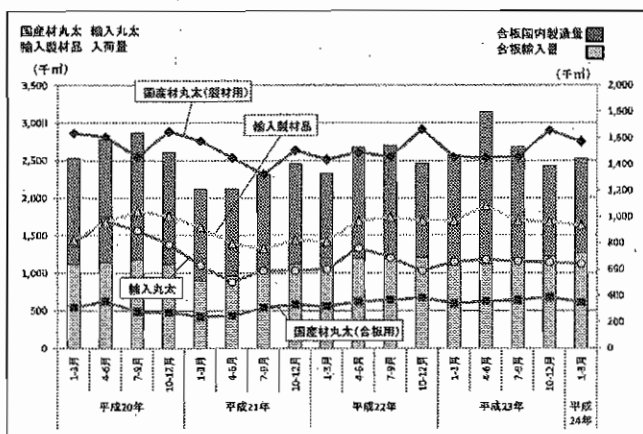


図 丸太(国産、輸入)、輸入製材品、合板(国内製造、輸入)取扱量の推移

(2) 輸入材丸太

米材丸太は、第4四半期は円高による価格競争力と住宅着工の回復傾向から需要が見込まれる。供給は、24年第1四半期は需要が落ちる時期ながら、代替材のロシア材や北海道カラマツの供給増が見込まれないことから前年同期並みになる。

南洋材丸太需要は、国内合板メーカーの針葉樹への材料切り替えが進み、長期的な減少傾向が続いている。供給は震災後輸入合板が大量に入荷したことから荷動きが回復せず、24年第1四半期は雨季等の季節要因から低調の見通し。

北洋材丸太需要は、国産材や他の外材に比べ価格が割高で落ち込んでいる。供給は、中国内陸向けへ配船が優先されていること、国内合板メーカーが北米材に切り替えていることから減少する見通し。ニュージーランド・チリ材丸太需要は、第4四半期は年

末に向け増加、24年第1四半期は、円高の輸出への影響により、梱包材の需要減から前期をやや下回る見通し。

(3) 合板

国内製造合板の需要は、第4四半期は復興住宅需要が見込まれ、前期をやや上回る見通し。24年第1四半期は住宅全般の需要が上昇するとの見込みから、前期並みの見通し。供給は、第4四半期以降被災工場の復旧や住宅着工需要、住宅メーカーの輸入合板から国産合板への資材切り替えにより、増加する見通し。

輸入合板の需要は、第4四半期以降震災後の土木工事とマンション需要の回復により、型枠合板の需要が拡大する傾向。供給は、第4四半期からは震災後の大量入荷在庫調整もあり、伸び悩み見込み。

(4) 構造用集成材

国内製造集成材の需要は、第4四半期以降プレカット工場からの受注などあるものの季節要因もあり、横ばいからやや減少の見通し、

供給は需要動向を踏まえ、横ばいからやや減少の見通し。

輸入集成材の需要は、第4四半期以降横ばいの見通し。供給は、第4四半期はわずかに減少、24年第1四半期は現地(欧州)が安定する冬場に入りわずかに増加する見通し。

山林素地及び

山元立木価格調べ

平成23年3月末現在の
林地価格と立木価格

(財)日本不動産研究所は、平成23年3月末現在における都道府県別林地価格及び立木価格の調査結果を公表しました。その中から用材林の林地価格とスギ立木価格について紹介します。

▽用材林の林地価格

昭和15年を100とした卸売物価指数は3万8800〜4万3600となっており、平成6年〜16年までの10年間は低下傾向、以降平成20年までは高騰傾向を示しているが、同年秋季のリーマン・ショックの影響により平成21年は再び低

下、その後平成23年に若干上昇に転じた。

用材林の林地価格は、全国平均、岩手県、青森県全てが直線的に下落を続けており、卸売物価指数が23年上昇に転じても林地価格の下落は止まっていない。平成23年の価格はその前年より、全国平均で1611円、青森県で1573円、岩手県で2000円低下しており、岩手県での価格低下の度合いが相変わらず高くなっている。

なお、地域別林地価格は、関東地域が最も高く、北陸、東山(山梨、長野、岐阜3県)、九州、東北が全国平均を上回っており、東海、中国、近畿、四国が全国平均を下回っている。

▽スギ立木価格

卸売物価指数が平成23年に低下傾向から上昇に転じたのに対し、スギの立木価格は、青森県では平成22年からわずかに上昇、岩手県では22年を底として23年上昇に転じ21年並みとなった。

平成6年から現在までのスギ立

木価格の推移を見ると、平成13〜14年頃には全国平均、青森県、岩手県とも価格が6年当時の約半値に、23年3月現在では23〜28%にまで下落している。

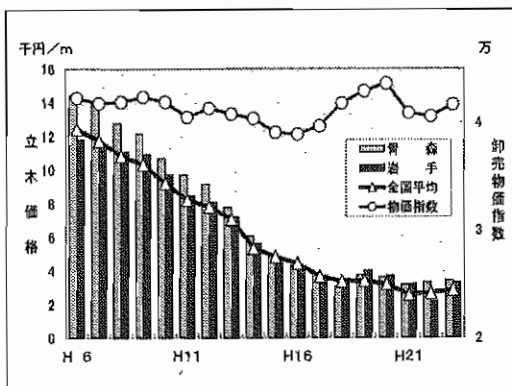


図2 立木価格(スギ)の推移

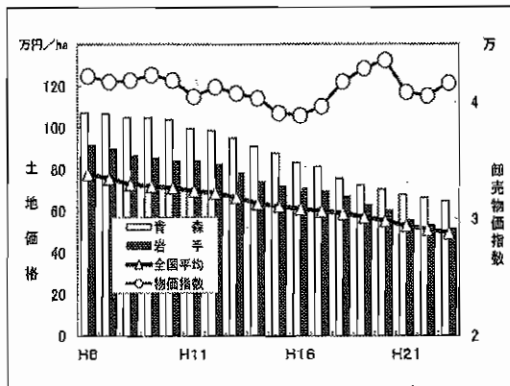


図1 林地価格の推移(用材林地)

一葉

樹木の気象害(4)

雪害(冠雪害)

文字通り雪による被害であるが、被害の原因によって大きく2つに分けられる。一つは冠雪害で、これは樹冠すなわち枝や葉に付着した雪の重さによって発生する被害であり、他の一つは地上に積もった雪の移動によって発生する被害である。ここでは、冠雪害について説明する。

東北地方でも度々発生しており、昭和55年東北地方を襲ったクリスマス豪雪によって森林に大規模な被害が発生した他、電線や鉄塔など送電施設への被害による大規模停電、家屋の倒壊、交通機関の麻痺などの被害が発生した。最近では平成22年12月の大雪で農業用ハウスや森林に被害が発生した。また、京都北山の磨き丸太の生産地での大きな被害が報じられている。被害は、湿った雪、所謂べた雪によって発生するもので、単なる大雪では発生しない。主に冬でも

落葉しないスギやアカマツに多く発生するが、落葉するカラマツに発生することも知られている。

被害の状況は、枝折れ、幹折れ、幹割れ、根倒れなど様々である。蔓切、除伐、間伐などの手入れがなされていない林の被害が多い一方、そのような林を一気に強い間伐をした林の被害も見られる。

アカマツ林では、放置した被害木が「松くい虫被害」の増殖源・感染源になる危険性があるので、注意を要する。

昨冬に岩手県の北上山地の早坂高原や平庭高原などで見られた被害は、冠雪害とは別の「雨水害」ではないかとの見方もある。あまり聞きなれない被害であるが、これは、上空でできた雨粒が地上近くの冷気で冷やされて、樹木の枝に触れた途端に凍りつき、これが次々に重なって、その重さで樹木が折れたり曲がったりする被害である。



写真1 スギ幼齡林の倒伏



写真2 スギの倒伏被害



写真3 スギの幹折れ被害



写真4 アカマツ過密林の被害



写真5 アカマツの幹折れ被害



写真6 シラカバの幹曲がり(雨水被害?)

作業道散策
19

コシアブラ(漣し油)

最近人気が出てきた山菜である。

タラノキやヤマウコギと同じウコギ科の植物で、若芽は独特の風味があり、愛好家が多い。岩手県南地方では「こさばら」の名で知られていたが、産直やスーパーで販売されるようになったのはごく最近である。樹高が20mにもなるので、若芽を摘むことができるのは開けた場所に発生する若木に限られる。

(写真1)

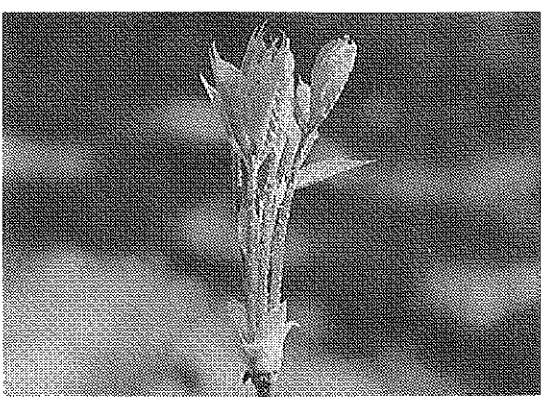


写真1 コシアブラの若芽

木材は白く柔らかで、細工がしやすいことからいろいろな玩具や置物に加工される。米沢市の笹野一刀彫(おたかぼつぽ)の材料として利用される。また、東北地方の各地で、花の無い時期に墓前に供える「けずり花」の材料としても使われる。

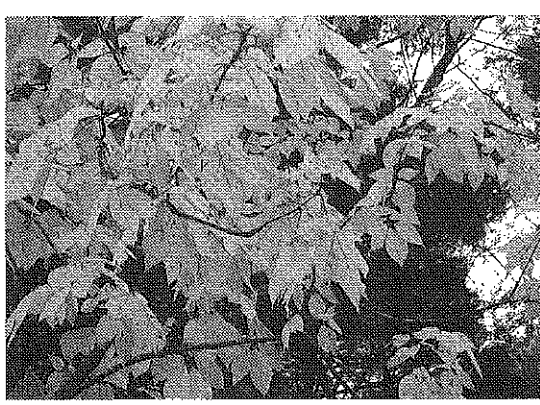


写真2 コシアブラの「白い」紅葉

秋、コシアブラの葉は、薄黄色に「紅葉」し、光の加減によっては真っ白に見える。カエデ類やナカマドなど華やかな赤や黄色のなかで一際異彩を放つ。(写真2)

コシアブラの語源は、樹脂を漣して塗料を作ったことによるとさ
れている。また、この塗料は金色
で、漆のように刀や槍に塗ってさ
び止めに使ったことから「こんぜ
つ(金漆)の呼び名が残っている。
他にも地方名が多く、いものき、
うそつぽ、うそば、こしやぎ、あ
ぶらき等全国で30以上の呼び名が
ある。

冗談欄 「ブータンの幸福と我が家のブータン」

先日、世界の屋根エベレスト山脈に位置しているブータン国から国王夫妻が来日し、大震災で疲れている日本人の心に癒しを与えて帰って行った。

今までは、金銭的、物質的豊かさの指数として「国民総生産」が用いられ、その値の変動に一喜一憂してきた。

ブータンの前国王は、国民総生産に変わる指標として心の豊かさ「国民総幸福度」を提唱した。

日本の政府も、昨年幸福度研究会を立ち上げ、指標作りを進めているようだが、この度法政大学の研究室で指数化を試み、その結果を公表した。

評価項目は、出生率、持ち家率、平均寿命、生活保護者数など40項目で、各項目ごとに評価し、その総点数によって順位付けした。

結果は、1位福井、2位富山、3位石川、4位鳥取、…と順位の高いのはなぜか北陸、山陰の県で

ある。反対に低い方は、47位大阪、46位高知、45位兵庫、44位埼玉、…と大都市があつたり、大都市近くの府県となっている。

ちなみに素流協の組合員がいる県を見ると、22位岩手、36位宮城、37位秋田、40位青森と下位にランク付けされている。

新聞記者が日本一幸せな福井県と日本一不幸な大阪府を訪問し、住民の声を聴いている。

福井では「確かに食べ物は美味しく、海や山も近い。でも、日本一なんてピンとこない」。大阪では、「犯罪や生活保護、失業など確かに厳しいが、娯楽施設等が近くにあり、生活を楽しんでいる」との声。

どうも、評価結果と住民感覚とは一致しないようだ。

そこで一句。

ブータンの幸福度より
金が欲しいと
我が家のブータン

平成23年10月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約1,170m増加、カラマツが約580m増加、アカマツが約660m増加し、全体では約2,420m増加している。昨年同月と比較すると、スギが約5,420m減少、カラマツが約5,340m減少、アカマツは約1,560m減少し、全体では約12,430m減少している。なお、今月はシステム販売取扱はなかった。
 - 2 その他(合板用以外)の出荷量は前月より約3,590m減少、昨年同月より約740m減少している。
 - 3 今年度の年間計画量に対する1か月あたりの出荷量の割合(目標達成率)を58.3%とすると、今月の全体出荷実績は、計画数量を23ポイント下回る進捗状況となっている。
- ※ 前号掲載の9月分販売実績表で数値の誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。スギその他 誤:3,259m³→正:3,802m³、カラマツその他 誤:416m³→正:465m³、その他針葉樹 誤:592m³→正:0 これに従い10月分販売実績表で累計を修正しております。(m³)

樹種	長級(m)	販売先				計	今年度累計			
		合板用			小計		その他	計	樹種別割合(%)	その他
		ホクヨー プライウッド(株)	北日本 プライウッド(株)	その他						
スギ	2.0	675		837	1,512		15,366			
	4.0	148		1,858	2,006		9,619			
	計	823		2,695	3,518	262	(863) 24,985	57.5	(173) 22,907	(1,036) 47,891
カラマツ	2.0	141		2,062	2,202		12,847			
	4.0	24		290	314		2,900			
	計	165		2,351	2,516	81	(95) 15,747	36.2	(149) 6,824	(244) 22,571
アカマツ	2.0						270			
	4.0			1,213	1,213		2,458			
	計			1,213	1,213	532	(0) 2,729	6.3	(0) 3,676	(0) 6,405
その他針						21	0.0	82	103	
広葉樹							0	0.0	662	662
合計		988		6,260	7,247	1,079	(958) 43,482	100.0	(322) 34,151	(1,280) 77,633
目標達成率(%)										35.3
計画量										220,000
バイオマス用針葉樹チップ材(単位:トン)										0トン

長級2.0には2.1を含む、()はシステム販売取扱量(内数)

落穂拾い

落穂拾い子の常日頃から関心があることの一つは、外国人の眼から日本国や日本人についてどのように見ており感じているのか、ということである。

そのような興味に駆られて、これまでも外国人の「日本観」についての記事等を雑誌や新聞から切り抜いてきた(「落穂拾い」の所以である)。そのうちの幾つかの小話を披露してみよう。

〈その一〉「米国人は殴りたいヤツを殴る。英国人は殴られてはいるヤツを殴る。ロシア人は殴られたら殴り返す。中国人は殴られたら抗議する。日本人は殴られても愛しちゃう」というのである。ただ最近、筆者は、「中国人は殴られなくても抗議する」となっているのではないかと、また、「日本人は殴られても愛しちゃう」だけでなく、そっぽを向かれても「愛して頂戴」と懇願する姿が目につく、と感じている。

〈その二〉六カ国協議で日本人がトイレに席を立ったあとの会話で、「中国人が日本人を本気で怒らせてみたいが、難しい。潜水艦で領海内に入っても怒らない」、韓国人が「独島を占拠しても怒らない」、ロシア人が「北方領土を返さなくても怒らない」、北朝鮮人が「なら、おれが核ミサイルをおち込んでみようか」、アメリカ人が「よせ、それはもうおれがやってみた」と言っていて笑いが止まらないうのである。これなどは、わが国の情けない真実を突いた小話で、日本人にとっては笑い話どころでなく泣きたくなるような外国からの日本観の一端である。

〈その三〉この話は、堺屋太一氏が5年ほど前のある雑誌に書いた「優しくて難しい」の内容から抽出したものである。

モンゴルの人びとが各国のテレビを見比べて口を揃えて言うには、

・「日本のテレビでは下手な素人の出演が多い」とのことである。素人に教諭して試技させるならまだしも、漫才師に曲芸の真似をさせて失敗を笑い、初歩的な達成に大喜びするような番組が実に多い。これに比べて諸外国のテレビに登場するのは「銭の取れる芸人」ばかりだ。

・「下手を楽しみ、喝采を送るなんて、日本人は優しいですね」。モンゴルの友人はそう言った後でこう付け加えた。「それに(モンゴル人が)調子を合わせるのには難しいよ」。

・「下手を楽しみ、初歩(的な技)の達成に拍手を送る優しさは悪くない。だが、それでは難しい修行や難度の高い技術はできなくなる。芸術、技術、スポーツなどでの日本の水準が国際的に低下しているのはそのせいかもしれない。特に気になるのは、政治と行政の水準低下だ。世界水準の政治家と官僚を作る叱咤激励が必要である」。

以上が堺屋太一氏が書いた内容の骨格である。毎日、夜のテレビ番組を見ると、芸人の老いも若きも多数かき集め、ときには政治家も加わって、階段状に設えた椅子に座らせて、クイズの回答者として雁首を並べさせる。これだけでも異様な光景なのに、全員が難しきもなく何の変哲もない回答に対してバカのひとつ覚えではないが「ヘーッ」と奇妙な声を一斉に張り上げて仰け反って見せる。モンゴルの人びとが「下手を楽しみ、喝采を送るなんて、日本人は優しいですね」と言ったというが、これは苦しい外交辞令であってその真意は、「日本人でなんてバカが多いんだろ。付き合っちゃいけないよ」というところであろう。低いレベルの国民が選ぶ議員もレベルが低きに流れるのは自然の理であろう。